

国立がんセンター外史-6 杉村隆  
発足まもなく始まった病院の奔流-2から引用  
国立がんセンターニュース第269号6頁 2008年8月

放射線治療は、先見の明で令名高い梅垣洋一郎先生が国立がんセンター発足時に信州大学から来任した。先見過ぎて、重粒子線構想を屢々主張される機会があったが、当時の国立がんセンター全体の予算より大きいような話だった。幸いに放医研で現実のものとなった。